組織的 Web サイト用 CMS の開発

04H104 水野貴弘

1　はじめに

卒業研究として CMS の開発を行った。CMS とは Contents Management System(コンテンツマネージメントシステム) の略称であり、テキストや画像などのデジタルコンテンツを統合的に管理し、配信など必要な処理を行うシステムの総称である。コンテンツ管理システムとも呼ばれている。

2　目的

今日、世に出ている数多の CMS には管理している複数の Web サイト間で記事を共有する機能がない。複数のサイトで記事を共有することでユーザーが閲覧する際のサイト移動にかかる負担を軽減することができるのではないかと考えた。この機能を実装した CMS の開発を行うことで、CMS についての知識を深め、自分が望む、他の CMS とは異なる CMS を開発するのが今研究の目的である。また、いかにして目的のソフトウェアを開発するかという開発手法、スケジュール調整、開発に関する経験を養うことも卒業研究の目的に含んでいる。

3　組織的 Web サイト用機能

CMS で複数の Web サイトを管理した際、それぞれの Web サイトが関係性を持っている場合に記事を共有したいと考えることがある。例えば会社の社員向け Web サイト郡を考えてもらいたい。全社向けの Web サイトがあり、そこから各部署向けの複数の Web サイトがツリー構造のように構築されている。全社向けに書いた記事を各部署向け Web サイトに表示することで社員は各部署の Web サイトを閲覧するだけで全社向けの記事を閲覧することができる。同様に各部署向けに書いた記事を全社向けの Web サイトに表示することで全社向けの Web サイトを閲覧した際には会社内の様々な部署の情報を取得することができる。それを記事の共有によって行うのが組織的 Web サイト用機能である。

具体的には、開発した CMS では管理する各 Web サイト同士で親子関係を持つことが可能である。これを卒業研究では Site P-C Model(Site Parent-Children Model) と定義した。

4　まとめ

今回の卒業研究では CMS というもの、その役割、それによって管理者にもたらされるメリットなどを考え、自分自身が作りたい CMS のイメージを形付けるところから始まった。その時点から現在の CMS に対する不満があり、それを解決するためにはどのようなものにするべきなのか検討した。結果たどり着いたのがパッケージ型 CMS であり、CiPS と SysPoS であった。その後予想外の忙しさにかまけて進行が遅れ、満足にスケジュールをこなせずデスマーチに陥ったことや理想のクオリティに到達できなかったことなど非常に残念である。ただし最低限目的としていた機能を表現することができたのは嬉しい限りである。

CiPS、SysPoS は成長していくシステムである、と私は考える。その時々の技術や発想を吸収し、CiPS の改良や新しいプラグインの開発などを行うことでその時代に即したシステムへと変化を遂げることができる。それは私が行うこともできるが、私の手を離れて誰かが行うこともできる。ここに今日のオープンソースなどの開かれた開発における最大のメリットがあると考える。最初の開発者以外でも自由に改良・開発することができ、ときに最初の開発者では考えつかなかった機能や、開発できなかった機能を追加することが可能になる。そういった意味でひとり立ちできるシステムとして土台作りにはなったのではないか。

この論文・研究内容を知り、私以外の研究生がさらなる改良や機能を加えて SysPos、CiPS が他の CMS と肩を並べるソフトウェアとしてインターネット上で公開されるようになることを期待する。